古墳時代

名前

問1　大和政権が朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ人々を厚遇し、積極的に組織へ組み込んだ理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 新潟県公立入試 類似）

1. 遣唐使を派遣する代わりに、大陸の役人を招いて日本の政治制度をすべて中国式に改めるため
2. 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため
3. 地方の豪族が持っていた鉄器の製造技術を独占し、天皇の権威を否定させるため
4. 狩猟採集中心の生活から、初めて稲作を中心とする社会へと移行させる必要があったため

問2　4世紀末から5世紀頃、ヤマト王権は大和地方を中心に勢力を拡大しましたが、その過程で地方の有力な豪族に対し、権力の象徴である銅鏡などを与える政策をとりました。この行為の主な目的として、当時の政治状況から考えて最も適切なものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

1. 全国の一律な税制を確立するために、度量衡の基準として鏡を配るため
2. 地方豪族との政治的な結びつきを強め、自身の支配下に置くため
3. 鉄製の武器を効率的に生産するための最新技術を、各地の豪族に共有するため
4. 地方豪族に仏教を布教し、大陸の進んだ思想で精神的な統一を図るため

問3　4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、鉄器の製作、須恵器の生産、さらには漢字や仏教などの高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。（2017年 徳島県公立入試 類似）

1. 渡来人
2. 防人
3. 弥生人
4. 遣唐使

問4　古墳時代から飛鳥時代にかけて、大陸からの渡来人が伝えた新しい技術によって製作されるようになった「須恵器」について、その特徴や背景を説明したものとして最も適切なものを選択してください。（2023年 愛媛県公立入試 類似）

1. 穴窯（あながま）を用いて高温で焼成された、硬質で灰色の土器である。
2. 備中鍬や千歯扱きといった農具とともに、江戸時代の農業発展を支えるために開発された。
3. 野焼きという古い技法で焼成された、赤褐色で厚手の土器である。
4. 宋から輸入された銅銭を溶かし、金属加工の技術を応用して作られた器である。

問5　5世紀、ヤマト王権の首長たちは「倭の五王」として中国の南朝へ使者を派遣し、朝貢を行いました。この外交活動の主な目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

1. 隋に対して対等な立場での外交を求め、中国の進んだ律令制度をいち早く導入するため
2. 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため
3. 邪馬台国の卑弥呼が魏から受けた称号と同様の権威を背景に、九州地方の豪族を支配するため
4. 仏教の公伝をきっかけとして、大陸の進んだ建築技術や工芸品を組織的に輸入するため

問6　埼玉県の稲荷山古墳から出土した、表面に「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」という文字が金色の象嵌で刻まれた遺物について、その名称として正しいものを選んでください。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 埴輪
2. 金印
3. 銅鏡
4. 鉄剣

問7　渡来人が日本列島にもたらした技術や文化のうち、当時のヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、他国との交渉を行う上で、特に記録や伝達の手段として不可欠となったものはどれか。（2017年 徳島県公立入試 類似）

1. 機織りの技術
2. 須恵器の製作技術
3. 仏教
4. 漢字

問8　古墳時代の展示において、当時の有力者の墓である古墳の内部に納められた「副葬品」が紹介されています。これらの中で、被葬者の権力や権威を示すとともに、当時の中国大陸との活発な交流を裏付ける代表的な資料として、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. 古墳の墳丘の頂上や周囲に並べられ、聖域を区切る役割を持っていた人や馬の形の埴輪
2. 弥生時代に主に近畿地方を中心に広まり、祭りの道具として使われた青銅器の銅鐸
3. 大陸との外交関係や支配者の権威を示すために墓に納められた、三角縁神獣鏡などの銅鏡
4. 魔除けや豊かな収穫を祈る儀式に用いられた、縄文時代の土製の人形である土偶

問9　世界の歴史において、7世紀初頭にムハンマドがイスラム教を創始した時期、日本において行われていた政治体制や社会状況として正しいものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）

1. 北九州の「倭の奴国の王」が、後漢の皇帝から金印を授かっていた。
2. 大王を中心として近畿地方の豪族で構成された大和政権による統治が行われていた。
3. 平城京が建設され、律令に基づいた中央集権的な国家体制が整備されていた。
4. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かり、邪馬台国が30余りの国を従えていた。

問10　5世紀、ヤマト王権の「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に繰り返し使者を送りました。中国側の歴史書『宋書』倭国伝に記されている、彼らが朝貢を通じて中国皇帝に認めてもらおうとした地位や権限とはどのようなものですか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）

1. 明との間で勘合を用いた貿易を行うための独占的な権利
2. 鎖国体制を維持するために、他国との国交を断絶する公式な許可
3. 遣隋使の派遣を永続的に免除される特権
4. 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権

問11　古墳時代において、特定の地域に限定されず、全国各地で大規模な前方後円墳が築造されたという事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 仏教の影響が全国に及び、共通の儀礼に基づいた埋葬方法が庶民にまで普及したこと。
2. 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。
3. 狩猟・採集中心の社会から、稲作を中心とする平等な共同体へと社会が変化したこと。
4. 各地の豪族が、大陸から伝わった最新の墓制を競い合うようにして独自に導入したこと。

問12　5世紀ごろの古墳からは、鉄器の材料となる「鉄の延べ板」が数多く出土しており、朝鮮半島から移住してきた人々がもたらした技術の高さがうかがえます。これら渡来人が当時の日本（ヤマト王権）に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 千葉県公立入試 類似）

1. 鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。
2. 遣隋使が派遣されたことで、中国の優れた官僚制度がそのまま導入され、即座に律令国家が完成した。
3. 仏教が初めて伝来したことにより、それまで行われていた古墳の築造が全国で一斉に禁止され、寺院建築に移行した。
4. 平城京を中心に商業が発展し、全国で和同開珎などの貨幣が日常的に使われる経済構造へと変化した。

問13　古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
3. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。
4. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 大陸の優れた土木技術、金属加工、文字の知識などを取り入れ、政権の支配力を強めるため	大和政権は、渡来人が持つ先進的な技術（鉄器製作、灌漑などの土木、織物）や知識（漢字による記録、儒教、仏教）を独占・管理することで、他の有力豪族に対して優位に立とうとしました。これらの技術は、巨大古墳の造営や農地の拡大、組織的な統治に欠かせないものでした。
問2	答え 2 地方豪族との政治的な結びつきを強め、自身の支配下に置くため	ヤマト王権は、近畿地方を拠点として各地の有力な豪族を従属させることで勢力を広げました。王権から豪族へ銅鏡などの貴重な品を分け与える行為は、王権への服従を誓わせる対価として、その地域での支配権を公式に認めるという意味合いを持っていました。これにより、武力による制圧だけでなく、政治的な主従関係による連合体のような支配体制を築いていきました。
問3	答え 1 渡来人	4世紀以降、大陸での戦乱などを背景に、朝鮮半島や中国大陸から優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ移り住みました。彼らは金属加工や土木技術、機織りなどの実用的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教といった学問・宗教も伝え、古代日本の文化や政治の発展に大きな役割を果たしました。
問4	答え 1 穴窯（あながま）を用いて高温で焼成された、硬質で灰色の土器である。	須恵器は、5世紀頃（倭王が中国に使いを送っていた時期）に朝鮮半島から渡来した人々によって製作技術が伝えられました。それまでの日本で見られた、野焼きによる赤褐色の土器（縄文土器・弥生土器・土師器）とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を使い、1000度以上の高温で蒸し焼きにする技術が用いられています。これにより、非常に硬く、水の漏れにくい灰色の仕上がりとなるのが特徴です。
問5	答え 2 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため	5世紀のヤマト王権にとって、武具や農具の材料となる鉄資源の確保は極めて重要でした。そのため、鉄の供給源である朝鮮半島南部での軍事的な影響力を強化することや、中国の皇帝から称号を授かることで、国内の有力な豪族たちに対して自らの王権の正当性を示すことが、この外交活動の大きな目的となっていました。
問6	答え 4 鉄剣	稲荷山古墳から出土したこの鉄剣には、115文字に及ぶ漢字が刻まれており、当時の政治状況や文字の使用状況を知る一級の史料となっています。刻まれた「獲加多支鹵大王」は、日本書紀や古事記に登場する雄略天皇を指すと考えられています。
問7	答え 4 漢字	文字を持たなかった当時の日本において、渡来人がもたらした漢字は極めて重要な役割を担いました。ヤマト政権は、渡来人の子孫たちを「史（ふひと）」などの役職に就け、朝廷の記録作成や、中国・朝鮮半島の諸国との外交文書の作成に当たらせました。これにより、組織的な統治や国際的な交渉が可能になりました。
問8	答え 3 大陸との外交関係や支配者の権威を示すために墓に納められた、三角縁神獣鏡などの銅鏡	古墳時代、古墳に葬られた有力者は自らの権力を示すために、大陸由来の貴重な品々を副葬品として墓の中に納めました。特に三角縁神獣鏡などの銅鏡は、中国の王朝とのつながりや、それを入手できる大和政権との政治的な結びつきを示す重要な象徴でした。埴輪は古墳の表面や周囲に立て並べられるものであり、内部に埋葬される副葬品とは区別して理解する必要があります。
問9	答え 2 大王を中心として近畿地方の豪族で構成された大和政権による統治が行われていた。	7世紀初頭の日本は、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇を助けて政治を行っていた時期にあたり、政治組織としては大和政権の段階にあります。同時期の世界では中東でイスラム教が誕生しています。他の選択肢について、金印の授与は1世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼の活躍は3世紀、平城京への遷都は8世紀（710年）であり、それぞれの時期が異なります。
問10	答え 4 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権	5世紀になると、ヤマト王権の王たちは「倭の五王（讃・珍・済・興・武）」として中国の南朝に朝貢しました。彼らの主な目的は、日本国内の統一的な支配権を国際的に認めさせることだけでなく、当時進出を図っていた朝鮮半島南部における外交・軍事的な優位性を確保し、その立場を中国皇帝に正当化してもらうことにありました。
問11	答え 2 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問12	答え 1 鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。	渡来人が伝えた鉄器の製造技術は、それまでの木製や石製の道具に比べて耐久性と効率を飛躍的に高めました。これにより、大規模な治水工事や開墾が行われて農業生産力が増大し、その経済力を背景に大王（ヤマト王権）を中心とする支配体制の基盤が強化されることにつながりました。
問13	答え 4 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。